

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	認知症施策の推進と予防
区分	自立支援・介護予防・重度化防止

現状と課題

- 令和2年度実施の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果より
- ・「認知症リスク」5割、「物忘れが多いと感じる人」5割、「介護者不安を感じる介護で認知症への対応」3割
 - ・要介護認定者の原因疾患より「認知症」が1位

第8期における具体的な取組

- ①**認知症に対する正しい理解の促進
 認知症について正しく理解し、地域で認知症の人や家族を温かく見守り手助けをする「認知症サポーター」を養成する。町広報、ケーブルテレビ等で普及啓発を行う。
- ②**認知症の予防
 認知症予防に自主的に取り組めるよう普及啓発を図る。

目標（事業内容、指標等）

事業内容・指標	令和3年度	令和4年度	令和5年度
認知症サポーター養成講座 開催回数	6	6	6
認知症サポーター 養成数	300	300	300
認知症サポーター 累計	2,897	3,197	3,497

- ・町広報、ケーブルテレビ等で普及啓発を行う。
- ・出前講座や「あたま元気アップ教室」を開催する。

目標の評価方法

- 時点・・・実績評価のみ
- 評価の方法
 - ・開催回数及びサポーター累計数等が目標値に到達できたか。
 - ・次期計画策定時のアンケート調査における関連項目（基本チェックリスト・生きがい・地域活動・介護者の状況など）によるアウトカム評価

年度	令和4年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

実績評価

実施内容																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業内容</th> <th></th> <th>R4 度実績値</th> <th>R4 度目標値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認知症サポーター養成講座</td> <td>開催回数</td> <td>15</td> <td>6</td> <td>250.0%</td> </tr> <tr> <td>認知症サポーター</td> <td>養成数</td> <td>369</td> <td>300</td> <td>123.0%</td> </tr> <tr> <td>認知症サポーター</td> <td>累計</td> <td>3,230</td> <td>3,197</td> <td>101.0%</td> </tr> </tbody> </table>					事業内容		R4 度実績値	R4 度目標値	達成率	認知症サポーター養成講座	開催回数	15	6	250.0%	認知症サポーター	養成数	369	300	123.0%	認知症サポーター	累計	3,230	3,197	101.0%
事業内容		R4 度実績値	R4 度目標値	達成率																				
認知症サポーター養成講座	開催回数	15	6	250.0%																				
認知症サポーター	養成数	369	300	123.0%																				
認知症サポーター	累計	3,230	3,197	101.0%																				
<p>・町広報やホームページの掲載、認知症サポーター養成講座を実施した。令和4年度は従来のキッズサポーター養成講座の他、ショッピングセンターからの講座申込があった。</p>																								
自己評価結果 【◎】※																								
<p>・小学生及び高校生における認知症サポーター養成講座の開催は定着しており、若い世代が認知症を正しく理解し適切な対応について学習する機会となっている。</p> <p>・新たにショッピングセンターの社員向けの養成講座を開催したことで、回数及びサポーター数ともに大幅に実績を伸ばすことができた。</p>																								
課題と対応策																								
<p>・ひきつづき、小学生や高校生の講座を継続し若い世代のサポーターを増やすとともに、個人や団体等に働きかけ、地域全体で認知症の人を見守り支えていけるよう、より積極的に認知症サポーター養成を推進していく。</p> <p>・認知症に関する正しい理解の定着はまだ十分とは言えないため、ひきつづき、町広報やケーブルテレビ等を活用し、様々な機会を捉え普及啓発を進めていく。また当事者の声を発信するなど、より身近なこととして捉え考えられるよう工夫する。</p>																								

年度	令和3年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

実績評価

実施内容																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業内容</th> <th></th> <th>R3 度実績値</th> <th>R3 目標値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認知症サポーター養成講座</td> <td>開催回数</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>認知症サポーター</td> <td>養成数</td> <td>266</td> <td>300</td> <td>88.7%</td> </tr> <tr> <td>認知症サポーター</td> <td>累計</td> <td>2,861</td> <td>2,897</td> <td>98.8%</td> </tr> </tbody> </table>					事業内容		R3 度実績値	R3 目標値	達成率	認知症サポーター養成講座	開催回数	6	6	100%	認知症サポーター	養成数	266	300	88.7%	認知症サポーター	累計	2,861	2,897	98.8%
事業内容		R3 度実績値	R3 目標値	達成率																				
認知症サポーター養成講座	開催回数	6	6	100%																				
認知症サポーター	養成数	266	300	88.7%																				
認知症サポーター	累計	2,861	2,897	98.8%																				
<ul style="list-style-type: none"> ・町広報やホームページの掲載、民生委員会や地域の通いの場にて普及啓発を行った。 ・認知症予防教室(あたま元気アップ教室)を開催し、認知症予防の実践を行った。 																								
自己評価結果 【◎】※																								
<ul style="list-style-type: none"> ・小学生及び高校生における認知症サポーター養成講座の開催は定着しており、若い世代が認知症を正しく理解し適切な対応について学習する機会となっている。 ・認知症サポーターの活動の場の提供をはじめ、チームオレンジの発足に向けての体制構築が課題である。 																								
課題と対応策																								
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座は、個人向け講座の参加者や団体への出前講座の依頼が減っているため、より広い周知に努める。また、各小学校4年生也高校1年生への講座は継続し、若い世代のサポーターも増やしていく。地域全体で認知症の人を見守り支えていけるよう、より積極的に認知症サポーター養成を推進していく。 ・普及啓発については、認知症に関する理解はまだ十分とは言えないため、引き続き、町広報やケーブルテレビ等を活用し、様々な機会を捉え普及啓発を進めていく。また当事者の声を発信するなど、より身近なこととして捉え考えられるよう工夫する。 																								